

ポストン—福島シャトル便（板橋にある変わったパワースポットの巻）

皆様はじめまして。10月1日から公衆衛生学講座にて講師として務めております、岩佐一と申します。出身は心理学でして、認知機能、抑うつ、性格といった心理学的要因が健康にどのように影響しているかについて興味があり、地域にお住まいの高齢者の方々を対象として調査研究を行っております。福島県立医科大学に移りましても、講座ゆかりの方々にご指導いただき、これまでの研究をパワーアップして継続していく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

さて本日は、東京都板橋区にある一風変わった「パワースポット」をご紹介します。板橋は私が研究者人生をスタートさせた職場である（現在は非常勤研究員としてお世話になっています）、東京都健康長寿医療センターがあるところです。本日は福島から足を延ばして板橋の史跡をご紹介しますと思います。

板橋といえば、江戸時代に中山道の宿場町として栄えていた地として有名です。いまでも旧中山道沿いに、仲宿商店街が伸びており活況を呈しています。その仲宿商店街の通り沿いに、パワースポット「縁切榎（えんきりえのき）」がひっそりと立っています。うっかりしていると通り過ぎてしまうくらい、小さい史跡です。



「縁切榎」は、「悪縁を断ち良縁を紡ぐ」という力があるとされており、昔より信仰の対象となっていました。江戸時代に、皇女和宮（14代徳川家茂の正室）が徳川将軍に嫁ぐため中山道を通って京都から江戸へ入る際、良縁が断たれてしまうのを嫌って縁切榎の前を大きく迂回して通過したという話は有名です。当時はそれほどまでにその力が信じられ、恐れられていたのでしょう。

「縁切榎」の内部は神社のようになっており、お参りができるようになっています。一画には絵馬が掲げられています。ここでの願い事は、他の神社とは様相がだいぶ異なっています。これまでの悪縁を断ち良縁に恵まれたという前向きな願いが書かれた絵馬も多いのですが、一方で、後ろ向きな願いといいたまじょうか、必殺仕事人への依頼のようなものも含まれています。

「パワースポット」というとエネルギーをもらえるようなポジティブなイメージがありますが、この「縁切榎」では、明と暗の両方を併せ持つというような人間の本性の一端を垣間見ることができ、なんだか複雑な気持ちになります。



一風変わったパワースポット「縁切榎」。お近くにお寄りの際には是非尋ねてみてください。

縁切榎

(板橋区登録文化財)

江戸時代には、この場所の道をはさんだ向かい側に旗本近藤登之助の抱屋敷がありました。その垣根の際には榎と槻の古木があり、そのうちの榎がいつの頃からか縁切榎と呼ばれるようになりました。そして、嫁入りの際には、縁が短くなることをおそれ、その下を通らなかつたといひます。

板橋宿中宿の名主であった飯田侃家の古文書によると、文久元年（一八六一）の和宮下向の際には、五十宮などの姫君下向の例にならひ、榎をさけるための迂回路がつくられていひます。

そのルートは、中山道が現在の環状七号線と交差する辺りから練馬道（富士見街道）、日曜寺門前、愛染通りを経て、板橋宿上宿へ至る約一キロメートルの道のりでした。

なお、この時に榎を茹で覆ったとする伝承は、その際に出された、不浄なものを箆で覆うことと命じた触書の内容が伝わつたものと考えられます。

男女の悪縁を切りたい時や断酒を願う時に、この榎の樹皮を削ぎとり煎じ、ひそかに飲ませるとその願いが成就するとされ、靈験あらたかな神木として庶民の信仰を集めました。また、近代以降は難病との縁切りや良縁を結ぶという信仰も広がり、現在も板橋宿の名所として親しまれていひます。

平成十八年三月

板橋区教育委員会